

FOREST ARCHITECTURE & WINTER SCHOOL 屋久島

森と建築

夏季・冬季
合宿

2018

杉は国内の木造建築に欠かせない存在です。屋久島の杉は日本の杉の原種とされています。屋久杉を育む屋久島の森は、日本全土に広がる森林の縮図のような環境が見られます。このスクールへの参加を通し、その圧縮された自然環境で育つ杉の植生・木材の特性を学び取り、木造建築の要の一つである木材林業への理解を深めます。またその屋久島の杉材を使い、実際に建築物を計画・製作を実践し地域で育まれた木が木材となり建築物となり人に使われていくまでを体感します。

夏季：木と森を知る

定員 20 名
 日程：2018年8月5日(日)～8(木) 3泊4日
 8/5 13:00 集合(gallery TABIRA)
 14:00 山歩き出発 淀川小屋宿泊
 8/6 AM 屋久島の森散策(ガイド付き)
 PM 屋久杉利用の古民家視察
 建築家ウィリアムブラワー邸訪問
 8/7 林業体験(間伐と植林)
 屋久島地杉加工センター視察
 8/8 AM 「バス停」(冬季合宿課題)現場視察
 11:30 終了 解散(空港・宮之浦港へ送迎あり)
 ※8/6～7の宿泊場所は長峰区公民館を予定
 場所：屋久島 島内各所
 参加費用：40,000円(宿泊費、ガイド料、保険含む)

冬季：育まれた土地で木を使う

定員 20 名
 日程：2019年2月1日(日)～8(木) 4泊5日
 2/1 13:00 集合(gallery TABIRA)
 14:00 屋久島地杉加工センターにてデザインし加工された木材を移動
 夜 講演会・交流会
 (地元住民・林業家・地元環境関係者)
 2/2 バス停製作作業(長峰区公民館にて)
 2/3 AM 森の散策
 PM バス停製作作業(長峰公民館にて)
 2/4 バス停製作作業(長峰公民館にて)
 2/5 11:30 終了 解散(空港・宮之浦港へ送迎あり)
 ※2/1～4の宿泊場所は長峰区公民館を予定
 場所：屋久島 島内各所
 参加費用：46,000円(宿泊費、ガイド料、保険含む)

※現地までの交通費は含まれません。現地集合、現地解散となります。※スケジュールは天候その他の理由により、予告なく変更する場合があります。※宿泊は山小屋・公民館・島内研修施設になります。※日程には山歩きなどが含まれるため、登山の装備が必要です。(レンタルあり)

森と水の島

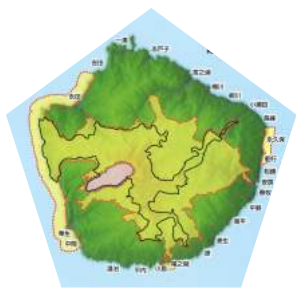


屋久島は日本一の降雨量がある土地とされています。東京の年間平均降雨量が約1400mmなのに対して、屋久島は平地で約4800mm、谷合で約7700mm。記録的な大雨となった平成11年は約11700mmにものぼり、現在においても気象庁の観測と

しては史上最高となっています。こうして山々に降る雨が森を育み、谷を削り滝になり、人々の暮らしを潤し、最後は海へ注がれるのです。そしてまた、太陽の恵を得て山へ降る。屋久島では、水の循環を見ることで自然の巡りを読み解くことができます。

世界自然遺産の島

屋久島は白神山地と共に、日本で初めてユネスコ世界遺産登録がされた場所です。島内の世界遺産登録地は海岸から山頂を含む島の約20%の範囲に及びます。登録の理由は日本自然観察の重要な要素であり、固有植物である杉の優れた生育地であること、東アジアの南から北の植物へ変化しながら植生する様子一つ一つの島で観察できることなどが上げられています。このような、唯一無二の自然環境で人々に愛される場所となっています。また、島の形はほぼ正五角形で黄金比の形状。均整のとれた美しい形も人々を魅了する要因かもしれません。



○ 世界遺産登録地

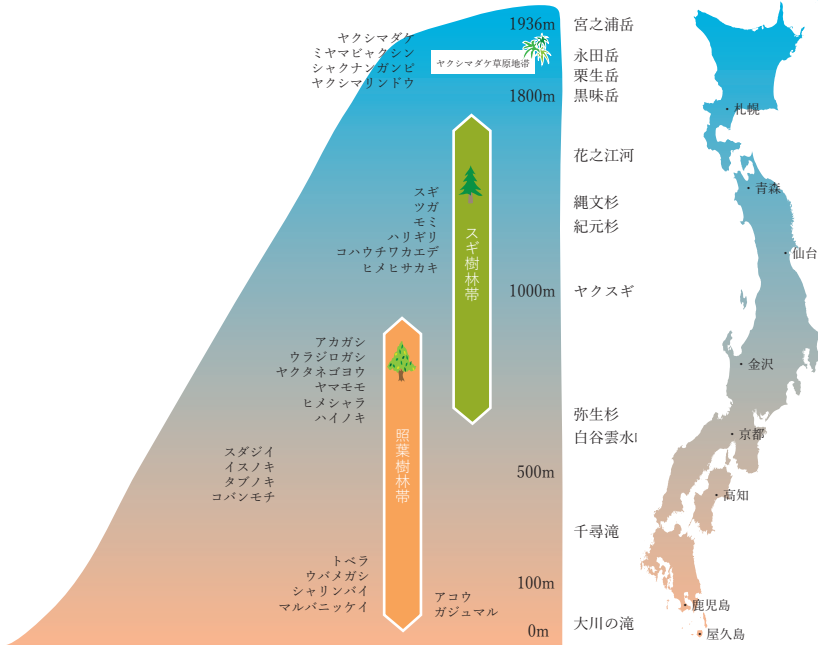
環境先進の島

現在、屋久島では「CO2フリーの島づくり」が進められており、地元の団体・企業・行政で構成される「屋久島低炭素地域づくり協議会」が組織されました。それぞれが連携しエネルギー消費量を減らしつつ、CO2の排出量を抑える取り組みをしています。特に電力に関しては先進的です。もともとは各集落で、豊富な水量を活用した小水力発電所が設置し自給していましたが、電化製品が急激に普及し、電力会社から電力を購入が必要になりました。しかし、再び小水力発電が見直され、現在では一部の公共施設の照明設備などを賄って、余るほどの発電が可能な状況になっています。こうした実績が評価され、環境への取り組みが先進的な島としての注目が高まっています。



屋久島は世界遺産登録された一因にもなっていますが、島内で東アジアの南から北までの自然環境が見られます。島の平均気温は約20℃近く、亜熱帯の気候ですが、山を100m登るごとに0.6℃ほど気温が下がり、標高2,000m近い山頂では6℃台が平均気温の亜寒帯の気候に変化します。直径30kmに満たない島が、いわば屋久島～札幌付近の緯度が圧縮された環境。合わせて、海岸から山頂へ気温の変化に伴った植物が移り変わる垂直分布が見られます。

日本の森林環境が 圧縮された島



標高500m以上に自生するものを「屋久杉」と呼びます。屋久杉の原生林は元来、島民の信仰対象の一つであり、人が手を入れることはしてきませんでした。しかし、500年程前に寺社寺院などの建造への利用が始まったことを切っ掛けに建材として活用されてきました。現在、屋久杉の伐採は禁止されていますが、屋久島が杉の育成に適切な場所であることは変わりません。そのため建材へ利用を目的として、植林活動が継続され現在も優れた杉の産地になっています。屋久島の杉の森は日本の木造建築を今昔にわたり支え続けている場所です。



林業の礎となった島

企画 彦根アンドレア（彦根建築設計事務所 建築家 武蔵野美術大学 非常勤講師）
並木秀浩（ア・シード建築設計 建築家 日本大学 非常勤講師）
田平拓也（NPO 屋久島エコフェスタ理事長）

協力 NPO屋久島エコフェスタ オメナヘプロジェクト実行委員会
（株）屋久島地杉加工センター
鹿児島県立屋久島高校
屋久島町長峰区
屋久島森林組合

後援 屋久島町教育委員会 屋久島町 鹿児島県 屋久島森林生態系保全センター

協賛 チャンネルオリジナル株式会社

お問い合わせ・お申込み

【E-mail】 office@tabira.biz または andrea@a-h-architects.com

【TEL】 0997-43-5956（田平 宛て）または 03-5429-0333（彦根建築設計事務所）

※装備、屋久島までのアクセス、食事についても上記まで気軽にご連絡ください。